

本郷通と本郷商店街の特徴

本郷の始まり

昭和 30 年ごろから現在の本郷地区の住民が急激に増え始めました。

その頃、本郷商店街の生みの親とされる長浜万蔵氏を中心に地域の皆さんの協力で区画整理事業が行われました。

合わせて「店舗を持つ人に本郷通の優先居住権を与える」という取り決めがなされ、その結果「商店街と住宅街が同時に形成される」という稀な地域として本郷通が生まれました。



1964 年頃、未舗装の本郷通
(引用：「白石ものがたり」)

商店街の今まで

昭和の終わりごろから平成中期にかけては、道路や街路樹・花壇の整備などが行われました、本郷商店街の区画には左写真のように歩道上に花壇や水飲み場が設置されていた時期もありましたが、平成 10 年頃～14 年頃に行われた道路改良事業などにより、ほぼ現在の形になりました。



1985 年の本郷通の風景
(引用：「白石ものがたり」)

通りの現在

春には植樹ますに花を植え、夏には夏祭り萬蔵祭の開催、秋には地域の清掃活動や冬支度、冬には歩道に設置されたロードヒーティングの管理や通りの除排雪

といった様々な独自の取り組みにより本郷商店街にとどまらず本郷通・本郷地区全体で、快適な暮らしを実現するための試行錯誤が続いています。



冬の除排雪

本郷通の未来像

平成中期の道路整備から 25 年以上が経過して、この間に地域事情も社会情勢も変化しました。

これからの本郷通を考える上では、大規模な工事や資金を投入するのではなく「今ある資源の活用」「自分達の手でできることから始める」ことを意識しています。そのために商店街だけでなく地域の皆さんや行政との協働がますます重要になっていきます。



ほこみち制度イメージ
(引用：札幌市資料)